

自己実現2025

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

3年生で実施する実力考査は5回あります。①第1回実力考査(4/10～11)実施済み。
②第2回実力考査(6/10～11) ③第3回実力考査(9/2～3) ④第4回実力考査(10/4～5)
〈第2回駿台・ベネッセ模試で代替〉 ⑤第5回実力考査(11/5～6)で判定資料に用いる語句
説明を以下に記します。

[A%・B%成績]

3年生の実力考査は、成績結果を「A%」・「B%」という数値で表示します。さらに、その成績にもとづき神戸高校独自の可否追跡調査を行い、資料を作成しています。

「A%」成績は次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200+社：200+理：100)／9

理系 (国：200+英：200+数：200+社：100+理：200)／9

◎第1回実力考査の地歴公民は、理系未実施のため、理系のみ2年1月の全統模試の結果を利用しています。

「B%」成績は、校内実力考査(記述模試)のデータのみ利用し、次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200)／6

理系 (英：200+数：200+理：200)／6

可否追跡調査に用いる総合成績は、第3回～5回の実力考査の各科目の平均を算出し、「A%」・「B%」成績の算出式に代入します。

「A%」成績が5教科の総合的な実力(大学入学共通テストの得点状況と密接な関連があります)を示すのに対し、「B%成績」は国公立大学の二次試験の実力を示す数値です。

[第1回実力考査教科・科目別講評]

〈国語〉

〈現代文分野〉共通テストで新たに出题される「実用的文章」は、2月実施の全国模試同様に高い得点率となった。他の問題とのバランスを考え、時間をかけすぎないように読み解かなくてはならない。「論説的文章」は抽象度の高い哲学的な文章を出题したためか、やや正答率は低くなった。字数の規模が大きい記述問題でも、部分点を取ることができるよう本文から解答の根拠となっている部分を見つけ、記述する努力を粘り強くしてほしい。

〈古文〉について、基礎の定着の有無が結果に顕著に表れている。基礎とは、基本古語における意味や文法事項である。これらを覚えなければ、自分の勝手な解釈のもとに話の内容をでっち上げ、的外れな解答をすることになる。選択肢問題では、誤りの内容を見抜けず、記述問題においては、古語や助動詞の意味に基づいた解答作成ができずに減点となってしまう。そうならないための対策を急がなくてはならない。

〈漢文〉古文と同様に、句法・語法の基礎知識の定着に時間を割くようにしなくてはならない。合計得点の上位30名(110点～133点)における約97%の生徒が漢文で50%以上の正答率がある。(全体平均の正答率は約34%)漢文で一番大きく得点差がついた。

〈数学〉

普通科文系

① すべて春休み課題から出題。3学期開始時に配布していたこともあってか、中長期的に取り組んでいた生徒は高得点を取れたと思われる。逆に課題の取り組みが疎かな生徒は振るわない結果となったのではないか。問題のレベルとしては決して高いものではないので、基礎からの定着を臨みたい。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

[自己実現2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

② 積分を利用した問題。面積を計算する際に解と係数の関係を利用できたかがポイントだった。青チャートに記載されているレベルなのでしっかり完解できるようになって欲しい。

③ 対数を利用した問題。計算問題はほぼ正解できていたが、以降の式の変形などにおいて、説明が不十分の記述が見られた。答えは自分の理解度をアピールするものであることを認識して丁寧に書いてほしい。

④ 数列の問題（漸化式）に三角関数が組み込まれたもの。和積（積和）公式が利用できなければほとんど得点できないものであり、低得点となった。数学的帰納法を利用する問題については基本的なものなのできちんと復習を行ってほしい。

⑤ 空間ベクトルの問題。座標空間で考えることで、ベクトルの大きさの値の範囲、通過領域の体積を求める問題であったが、ほとんどの生徒がその発想に至らず、得点できなかった。未知の問題に対しても解法を見つけることに一定の時間を費やすことで、発想力を高める練習をして欲しい。

普通科理系・総合理学科

① 文系①と同じ出題

② 文系②と同じ出題

③, ④ 複素数の問題。複素数の計算法則や絶対値や極形式、図形的性質を利用したものが出題されたが、普通科では授業で学習してから日が浅く、基本的事項が定着していないようである。回転移動は座標平面の問題でも複素数平面に置き換えて利用できるものであり、しっかり身に付けてほしい。

⑤ 文系⑤と同じ出題

⑥ 計算は煩雑であったが、極限値を求めることについてはシンプルな問題であった。円の面積をまともに求められていない答案もあり、反省を促したい。これも三角関数との融合問題であり、様々な公式を的確に利用できるかどうかで得点につながったかが分かれたのではないかと。

全体を通して、記述力はまだまだついていない印象を受けた。求値問題でも穴埋め形式でも、普段の学習からきちんと記述する癖をつけ、その成果をこれからの実力考査や記述模試で発揮できるよう奮起を促したい。 ※普通科理系と総合理学科は同じ内容の考査

【平均点】

◎ 普通科文系◎

① 10点 ② 10点 ③ 10点 ④ 10点 ⑤ 10点 合計 50点

◎ 普通科理系◎

① 10点 ② 10点 ③ 10点 ④ 10点 ⑤ 10点 ⑥ 10点

合計 60点

◎ 総合理学科◎

① 10点 ② 10点 ③ 10点 ④ 10点 ⑤ 10点 ⑥ 10点

合計 60点

<英語>

今回の実力考査では、課題長文が2題（40点）、実力長文が2題（60点）という出題であった。3年生になり、課題の割合が減り、そのかわりに基礎力が定着しているかどうかを測る実力問題が大幅に増えた。しかし、勘違いをしてはいけない。これは、「与えられた課題を軽視して、点数（結果）だけが出ればいい」ということではない。「すべきことにしっかり落ち着いて向き合えない」ようになっては、向き合えない勉強からは、学べないということになってしま

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

い、中途半端な、無駄な時間が増えて、学習効率が上がらない人になりかねない。日々の授業、予習、復習も同じである。焦ってバタつくのではなく、落ち着いて一つ一つ丁寧に取り組む姿勢を大切にしてほしい。

実力考査は100分間で大量の英文を読むことが要求されている。共通テストでも、実力考査と同様、大量の英文を、限られた時間で正確に把握して、多くの情報を処理していくことが求められるが、実力考査に挑戦する中で少しずつ慣れていけるようにしてほしい。効率的に英文を読むようにするために、語彙力、文法力を、高い精度まで高めることはもちろん、英文を前から後ろに、日本語を介さずとも内容が把握できるようにシャドーイングのトレーニングをすることをお勧めしたい。

また、さらに指摘しておきたいことは、文法力の甘さである。イディオムの範囲は少なかったのにも関わらず、正答率は非常に低い。さらに、記述の文法問題も押しなべて出来が不十分である。文法をないがしろにしては、その先の英語力の伸び幅が限定されてしまうと同時に、常に得点が安定しなくなってしまい、入試が運任せになってしまう。地に足の着いた英語力を目指すには、英文法力が不可欠である。軽視することなく、真摯に向き合うこと。

課題実力考査は、現時点での自分の英語の基礎力を知るうえで非常に有効である。定期考査ではとれるが、課題実力考査ではとれない人がいれば、自分の基礎力の定着を疑い、学習法を考え直す必要がある。予習段階から入試問題を意識し、語彙の意味の推測や文脈の流れを読み取る力を普段から意識してほしい。また、今回も和訳の問題を出題したが、この短い文章でさえ文脈を無視している答案も多かったし、語彙力の無さが垣間見られた。英作文に関しても、基礎力の定着はまだ先のようなのである。冠詞のうっかり忘れ、過去分詞形が書けない、3単元の付け忘れなど、先に頭の中で音読すれば間違わないはずである。とにかく、今回の課題実力考査をしっかりと見直し、今の自分の学力を正確に把握すると同時に、今後の自分の学習の方向性をしっかりと定めてほしい。6月の実力考査までに、ジーニアスの2200語をすべて覚えてほしい。

3年		1/2	3/4	5/6	7/8/9/10/11	12	13
	リスニング	課題長文	実力長文	語彙 イディオム	文法	和訳	英作
	100	40	60	20	50	15	15
1組	75.2	13.2	19.6	8.4	15.4	4.3	2.6
2組	76.1	14.2	19.4	8.2	16.7	4.5	2.3
3組	77.2	13.4	20.8	8.5	16.4	4.6	2.8
4組	73.4	12.1	16.3	5.6	14.9	4.4	1.9
5組	70.7	11.3	19.8	6.2	13.7	4.6	1.9
6組	75.6	12.3	18.8	6.5	11.4	3.8	1.8
7組	76.2	13.2	17.6	6.3	14.6	4.0	1.7
8組	73.4	11.6	19.1	5.0	13.9	4.2	1.7
9組	79.7	15.4	25.8	9.2	19.7	6.9	3.3
全体平均点	75.2	13.0	19.7	7.1	15.2	4.6	2.2
正答率	75.2	32.4	32.9	35.4	30.4	30.5	14.6
普通科 (1~8組)	74.7	12.6	18.9	6.8	14.6	4.3	2.1
正答率	74.7	31.6	31.6	33.9	29.3	28.6	13.7
総合理学科 (9組)	79.7	15.4	25.8	9.2	19.7	6.9	3.3
正答率	79.7	38.4	42.9	45.8	39.5	45.8	21.8

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

学年全体(200点満点) 平均点 62.0点

No.1 平均(100点満点) 32.7点 No.2 平均(100点満点) 29.3点

リスニング平均点 75.3点

普通科 全体平均点 59.4点

総合理学科 全体平均点 81.6点

No.1 平均点 31.6点

No.1 平均点 41.1点

No.2 平均点 27.8点

No.2 平均点 40.5点

リスニング平均点 74.7点

リスニング平均点 79.7点

<理科>

物理

①は熱力学分野の出題で、なめらかに動くピストンに温度調節器を取り付けて、ばねを取り付けたピストンの動きから容器内の気体の法則を理解して物理量(温度、圧力、熱量等)を求める問題である。②は波動分野(波の性質)の出題で、平面波について、正弦波の式を理解して、平面波が反射する場合での波の変位や到達時間を求め、進行波と反射波での合成する定常波の式を求める問題である。③は波動分野(音波)の出題で、円筒形のガラス管にピストンを移動させて、共鳴が起こる場合に気柱の長さ、密度変化の位置、共鳴の振動数、ドップラー効果から移動速度などを求める問題である。④は波動分野(光波)の出題で、ヤングの実験で近似式を使って光路差を導出して、スリットの条件を変えた場合に干渉縞の間隔の変化等について答える問題である。

得点の成績を見ると、①は全体の得点率が31.5%と最も低い、③・④も約3割台と低調で、②は5割台と比較的できていた。①の熱力学分野については、熱エネルギー、内部エネルギーや仕事に関係がまだよく理解されていないと考えられるので、それぞれの式の意味を理解して気体の法則や熱力学第一法則から解けるようにしたい。②については、正弦波の式の意味をしっかり把握して、波の変位・到達時間、合成波の式などを求めることができるようにしたい。③は気柱の共鳴現象について理解をよく理解した上で、密度変化による共鳴点の算出、ドップラー効果から振動数を求めることができるようにしたい、④はヤングの実験の定番の問題なので、近似式と干渉縞の間隔の現象を導出した公式から押えるようにしたい。①～④のいずれも問題も典型的な入試問題であるので類似問題を解いて要点を押えて、着実に求めことができるようにしておきたい。

	平均点	得点率 %			
		①	②	③	④
全体	41.2				
普通科	40.2	31.5%	56.3%	32.1%	35.4%
総合理学科	46.6				

化学

3年になって初めての實力考査として、大学入試に向けての進捗状況を測定する問題として出題しました。大問1は番号選択式の共通テスト形式、大問2～4は二次試験の記述形式です。近年は共通テストにも発展応用問題が出題されて、共通テストと二次試験の垣根がなくなってきたので、二次試験を受けない生徒も発展問題に対応できるようにすることが必要です。今回の問題の設問は基本～標準的なレベル(入試レベルから見れば)がほとんどですから、間<保護者の方々にも読んでいただきます>

[自己実現2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

違った箇所やできなかった箇所は解説を使ってきちんと復習をしてください。日頃の学習の取り組みの成果が表れているといえる5割の得点（本来は6割が目標点ですが）が取れている生徒もいますので、出遅れている人は夏休みに入るまでに1, 2年の範囲の復習もして、早めに追い付いていきましょう。3年の授業も（特に重要な有機化学の範囲を）ハイペースで進むので、基本問題集（グローバル）とともにマーク式問題集（チェック&演習化学）を週末ごとに解き終えていきましょう（自分で計画的に進めて下さい）。暗記がたいへんな分野なので覚える努力が重要です。次の8月の共通テストマーク模試では75点を目標にしてしっかり演習を進めてください。また、時間不足になった人は普段から時間を意識して問題を解くことで（計算も含めて）スピードをアップさせましょう。

生物

3年生物

～1学期4月実考講評

知識・技能

(配点53)

得点率42.8%、

思考・判断・表現

(配点47)

得点率37.8%

I (タンパク質) 理系の生徒には、何度もアミノ酸の構造式を出題しているが、正解率はいまだ15%に満たない。酵素の四次構造に関する設問は、題意が理解できれば計算は平易。また、遺伝子頻度や系統樹における分子時計の分野は頻出である。難易度はそう高くないが、計算問題が苦手な生徒は依然多い。

II A (光合成) 代謝における知識問題は、確実に得点したい。あやふやな知識のままでは、共通テストのパターンの正誤問題で正解にたどり着くことは難しい。細かいところまで出題しているとはいえ、得点率が低すぎる。

B (呼吸) 授業で学習した代謝経路や化学式に関して全く定着していない生徒もいる。復習を!

III A (発生) 理系の生徒は2年3学期に履修した分野のため正答率が高かったが、ウニやカエルの発生は自分で図示できるようにしておきたい。

B (転移RNA) 京都大2024入試問題Iから題材を得た。長いリード文を読み取り、自分で整理できる訓練を積んでおきたい。

物理基礎

1は仕事に関する実験結果を考察しており、概ね良く出来ていた。2は月面上での重力と浮力に関する設問で、(1)の得点率が低かった。自由落下の式から、落下時間が重力加速度の平方根に反比例することが分かる。3は交流に関する設問で、全体的に得点率が低かった。電気分野の中でも交流は手つかずの者が多かったのだろうか。4は比熱の分かっている金属Aを利用して金属Bの比熱を測定する実験の解析方法が問われており、(2)の得点率が低かった。熱

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

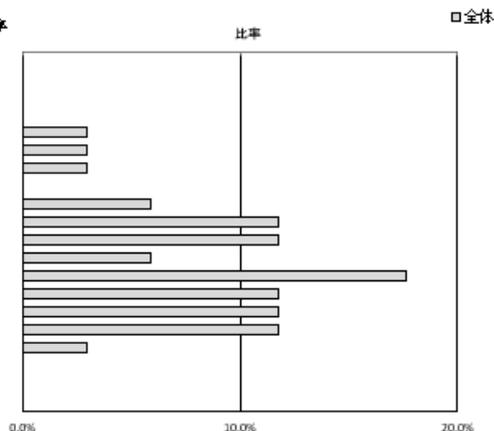
得点率分布表

全体				
	人数	平均点	最高点	最低点
全体	34	40.4	75	17

第1回実力検査
実施日: 2024年04月11日

全体(100%)の各検査得点比率

得点	人数	比率
95	0	0.0%
90	0	0.0%
85	0	0.0%
80	0	0.0%
75	1	2.9%
70	1	2.9%
65	1	2.9%
60	0	0.0%
55	2	5.9%
50	4	11.8%
45	4	11.8%
40	2	5.9%
35	6	17.6%
30	4	11.8%
25	4	11.8%
20	4	11.8%
15	1	2.9%
10	0	0.0%
5	0	0.0%
0	0	0.0%



量保存の法則をA,Bについて立式し、計算処理する力が必要である。5は気柱の固有振動に関する設問であり、図を描いて考えれば良い。様々な問題の中で文意を読み取り、基本の法則・式を物理的な事象に応用する力を身に付けてほしい。

化学基礎

・受験者95人 学年平均14.3点 最高点41点2名 30点以上5名 10点未満34名
1年間のブランクがあったことや、考察力を必要とする問題を多く出題したこともあり、厳しい結果であった。基本的事項の確認である問題が解けていない者の数が当初の予想よりも多く、得点が1桁の者が35.8%もいた。今後の学習で一年生のときに学習した内容を基礎基本から復習し、さらには共通テストに対応できる応用力を養っていくことが、今後の課題である。

第1問 小問集合

基本的な知識を問う問題を中心に出题した。特に問1,2,4,7,8,9は正答すべき基本的問題であったが、問4は正答率が低く、質量パーセント濃度、モル濃度、電離度、および中和に関する知識をもう一度整理する必要がある。問3,5,6ではグラフや表を読み取って考察するという、応用力を必要とする問題であったが落ち着いて考えれば解けたはずである。基礎基本を問われる問題を落とさずに解き、応用力を要する問題を時間内で冷静に考察し、どれだけ正答するかが得点アップの分かれ目である。

第2問 与えられた条件を読み取って考察する力を求める問題(逆滴定)

タンパク質を構成するアミノ酸に含まれる窒素原子を気体のアンモニアとして発生させ、その物質量を求めるといった問であった。タンパク質やアミノ酸、アミド結合など、化学基礎では扱わない内容の出題かと一見思われるが、それに対する説明が与えられており、その説明を読んで理解できるかどうかポイントであった。問題を解く上で必要な知識はどれも化学基礎の教科書に載っている内容である。逆滴定の手順、中和によってできる塩の加水分解を考慮したうえで指示薬として適当なものを選択するなど、中和滴定に必要な知識を盛り込んだ問題であった。

生物基礎

基本的な用語を問いかける問題を中心に全分野にまたがって出題をした。1年間のブランクがあるとはいえ、大半の生徒で、この段階での学力は余りにも低いと言わざるを得ない。正確な知識を積み上げる努力を期待したい。

<地歴>

世界史探究

平均39.5点 最高点:82点 最低点:11点

- 【1】 一問一答形式の問題 得点率43.5% 課題の範囲であるが復習が不十分であった。
- 【2】 中国史 得点率31% 唐代以降を中心に出题したが、特に中国と周辺民族との関係の理解が不十分であった。
- 【3】 史料問題 得点率33.7% 史実を理解しておれば、初見の史料も十分に解答できるはずで、これも基礎知識不足であった。
- 【4】 ギリシア・ペルシア関連問題 得点率51.2% ギリシアに関連する問題はある程度基礎知識が身につけている。ただ、論述問題となると知識が怪しくなる。
- 【5】 ドイツ史を中心とする問題 得点率41.9% ヨーロッパ中世から近世にかけての理解が不十分である。

今回の考査では、2年の学習範囲から二次試験および歴史的事項の理解度を意識した論述問題8問と共通テストを意識した正誤問題17問、その他の問題を出题した。全体として、基礎知識を前提とする問題構成であったが、復習が不十分で、今後、反復して学習しておく必要がある

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

る。歴史は流れの理解を重視し、しかる後に枝葉の部分となる細かな歴史的事項を習得するよう心がけること。

日本史探究

1 出題内容

大問は【1】荘園制と律令国家の制度、【2】室町時代とその文化、【3】古代東アジア外交史、【4】古代から近世の歴史、【5】江戸の社会と一揆、【6】江戸の農村政策。からそれぞれ出題した。

2 分析

文献史料や図像資料の読解をやや多く出題した。問われる用語が難関大向けのものもあり、教わったことのない語句も問われたと思う。今回の問題に関していえば山川の教科書に書いてある用語がすべておさえられていれば及第点である。したがってそのような用語が現時点で解答が出来なかったとしてもさほど深刻に思う必要はない。ただし日本史で2次試験や個別試験を課す大学のレベルに合わせて、教科書に詳しく触れていない用語については意識して覚えてほしい。特に歴史関係の問題は各大学クセがあり、出題される用語の傾向も専門の教員次第のところがあるので相当偏りがある。本当に受かりたいのであれば過去問の傾向に合わせて授業で扱われなかった用語も適宜押さえるべきである(あくまで過去問の傾向に合わせるべきなので、あらゆる大学の入試問題を網羅できるレベルマニアックな語句をひたすら、むやみやたらに覚えるよりは、まずは教科書の用語をしっかりと覚えるべきである)。

今回気になったこととして例えば鎌倉幕府の役職・組織・権限があまり覚えられていなかった。ということはおそらくほかの幕府や朝廷の組織・役職の権限を時代ごとにあまり抑えられていないのであろうと思われる。今後もさまざまな政府機関を覚えなければならぬので、今のうちに曖昧な部分をなくしておいてほしい。

【後記】 3年生になって初めての校内実力考査の結果はどうでしたか?人によっては2年生の時の成績から、かなり変動がありました。日々の取り組みの違いが少しずつ積み重なって大きく成績の差に現れたのだと思います。次の校内実力は6/10(月)・11(火)です。その前に5/31(金)放課後と6/1(土)全日に「進研総合学カマーク模試」があります。今回の成績に満足がいけない人は、自分で1か月の計画を立てて、次のテストまでに着実に学習を進めてください。進路指導室前に置いている『学習記録表』も活用してください。テスト結果が今一つだった人は「人と比べて自分をみるのではなく、昨日の自分より一歩だけ前進していればいい!」と前向きに考えましょう。新入生が部活動に加入し、部活動にも活気が増えています。後輩たちに技術面だけでなく勉強の面でも尊敬される先輩を目指しましょう。**疲れていても予習、復習を欠かさず、毎時間の授業に集中し、居眠りなど決してしない先輩こそ尊敬される先輩です。**新入生から全ての意味で憧れの先輩となれるよう、『**第一志望に現役合格**』を果たしましょう。

夏休みまでの考査予定

期	月	定期考査	実力考査	業者模試など
1 学期	4月		第1回実力考査 4/10, 11	
		中間考査 5/22~29		
	6月		第2回実力考査 6/10, 11	業者模試(進研マーク) 5/31, 6/1
		期末考査 7/2~8		
	夏休み	8月		業者模試(全統マーク) 8/9, 10

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現 2025]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。